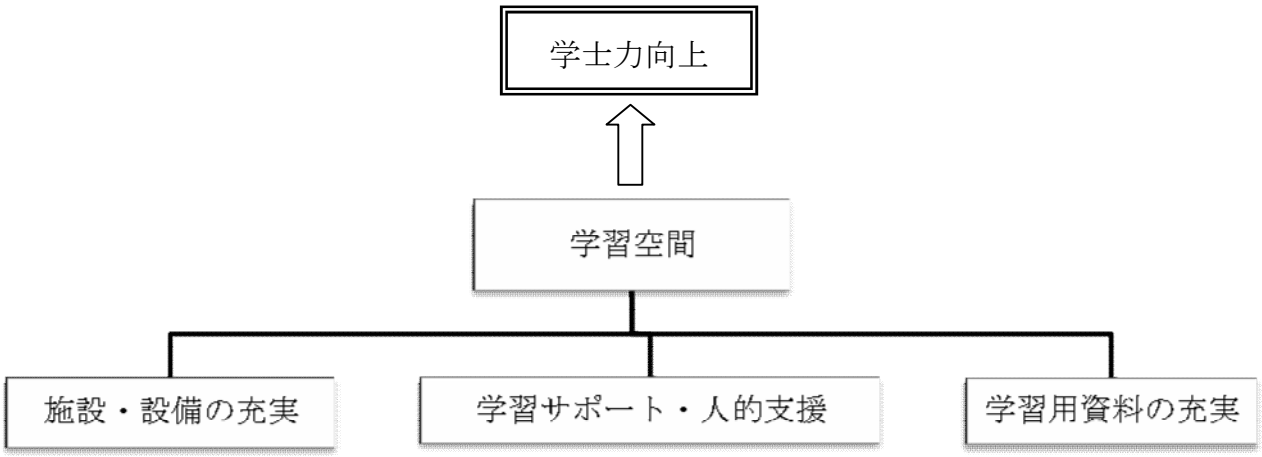
パブリック・サービス研究分科会８月 「図書館力」研究グループ報告書	
日時	2011 年 8 月 24 日(水)～26 日（金）
場所	静岳ホテル
記録	池上（東洋英和女学院大学）
参加者	阿部(早稲田大学)、池上（東洋英和女学院大学)、市川（法政大学)、 菅原（中央大学)、武藤(中央学院大学)

作業内容

①日本における大学図書館の事例を以下のとおり図式化した。



・神田外語大

◎情報リテラシー教育
- ・法政大学
- ・明治大学
- ・早稲田大学

◎学習アドバイザー
- ・東京女子大学
- ・法政大学
- ・立教大学

◎パスファインダー
- ・千葉大学
- ・法政大学

◎ポータル・オンラインサービス

・指定図書
・リザーブブック
・学生読書室
・研究サポートエントリーシート
・シラバス OPAC 連携
- ・千葉大学
- ・法政大学
- ・早稲田大学

*全体的な取り組みを行っている大学として、お茶の水女子大、千葉大学、東京女子大が別途挙げられる。
*米国の事例では、ワシントン大学とテキサス大学について取り上げる予定。

②“理想の図書館”について議論。
理想としては、学習支援のさらなる充実と、教育・研究支援。

大学教育の概念が変化（知識伝授型→主体的学習誘導型・アクティブラーニング）していることを踏まえると、大学図書館職員による学習支援の提供が必要と考えられる一方で、大学図書館の役割はそ

れだけで良いのか。図書館職員の教員化および教員へのサービスについてどう考えるか。
↓
対教員へのサービスが、いずれ学生へのサービスへと繋がり、大学全体の支援を行うことができる。
また、このような活動をすることで、図書館員の専門性を高めることも可能となる。FD にもっと図書館の力が使えるのではないか。

他方、米国の大学図書館とは、組織面や教育思想、文化の違い等、根本的な部分から異なる点があるため、そのまま真似をすることは現実的ではない。
↓
そこで、コンソーシアムを組み、互いに補い合うことを提案する。
既に、コンソーシアム間での図書の貸出返却を行われているところもあるので、さらに一歩進めてコンソーシアムでサブジェクトを割り振り、コレクションを構築していく。
このような支援を行うことにより、一大学だけではなく、日本全国の学士力向上に繋がる。
また、コンソーシアム間で図書館員の人事交流を行えば、図書館員のスキルもアップする。

③疑問点について。（業務委託グループからの質問事項を含む。）
・学習支援のレベルについて
・具体的な教員支援について
・米国にもコンソーシアムはあるか？
・サブジェクトを割り振る範囲について
・“学修支援”には、学習も研究も含まれるか？
・サブジェクトライブラリアンは、教員の相談相手という程度で良いか？
・米国に比べ日本の大学図書館が優れている点はどこか？
・学習支援や教育・研究支援を誰が担うのか？
・図書館員の役割、人材育成について。

次回までの課題
10 月例会開催日の 1 週間前までに、担当者は日米の事例を全員にメールで送信。
送られてきた事例をもとに、各自で日米比較（日本に足りない点、日本の方が優れている点）および理想の図書館についてまとめ、全員分のコピーを持参する。（例会欠席時には、事前に全員へメール送信をする。）
10 月例会時にすり合わせを行い、パワーポイントの準備を行う。

（以上）